



多古町から 生まれる 宝物

今回取材した生産者たちの声に共通するのは「人とのつながり」の大切さ。挑戦で壁にぶつかることがあっても、周りの人たちからの助けや温かい言葉が、生産者たちの支えとなっています。

人と人とのつながりや豊かな大地の恵みがあふれる多古町。多古の大地が生み出す恵みを味わい堪能することで、その価値を感じてみてください。そして、この物語を紡ぐ生産者の皆さんと一緒に応援しませんか。人と大地が織りなす絆が、多古町の未来をつくっていきます。

挑戦で切り開く新たな価値

現在私たちは町内で約 100 枚の畑を管理し、ニンジンを中心に約 11 種類の露地野菜を生産しています。

当初、有機栽培は難しいものと思っていましたが、町の支援や講演などを通じて今後の可能性を感じ、思い切って挑戦することにしました。最初は手探りでしたが、有機栽培に取り組む先輩農家の方や、多古町旬の味産直センターの方などからアドバイスをいただいたおかげで、前に進むことができました。

学びと実践を重ねるうちに、有機栽培ならではの難しさや新しい発見などがあり、挑戦する面白さを感じています。今後は他の農家さんへの視察やインターネット販売などにも力を入れたいと思っています。「ゆうふぁーむのニンジンだからこそ購入したい」と思っただけのよう、これからもより良い畑作りと価値ある農産物の生産を目指して、学びと挑戦を続けていきます。



▲ニンジンの収穫作業の様子



有限会社ゆうふぁーむ
(西古内)

境野心作さん

農業歴は約 20 年

今年 3 月頃から一部の畑でニンジンの有機栽培を開始

今後、有機 JAS 認証取得を目指す

都会を離れて 農業の担い手に



高石健太郎さん(船越)

農業歴は約 5 年 特別栽培歴は約 3 年

都内の会社員だった私が米作りの道に進んだ最初のきっかけは、知人の紹介で多古の米農家の方と出会ったことでした。その後約 2 年間、さまざまな農家の方と交流していく中で後継者不足の話聞き、自分も地域農業を支える担い手になりたいと思い、米農家になる決心をしました。

農業に関する情報収集を行い、自分一人で行える作業量などを考慮し、有機栽培よりも基準の緩やかな特別栽培に取り組むことにしました。現在は魚粉などを使った土作りに挑戦し、一部の田んぼでコシヒカリなどの主食米を栽培しています。品質と収穫量を両立させている方もおり、私もいずれはそうなれるよう、頑張っていきたいです。今後も実践を積み重ね、地域農業に貢献していきます。



▲コンバインを操り、稲刈り作業に取り組む様子